

子どもと教育・文化を守る

大阪府民会議ニュース

事務局 大阪教職員組合書記局内

TEL 06・6768・2330

FAX 06・6768・2239

発行 2010年12月27日

NO. 5

メールアドレス
daikyoso@
daikyoso.jp

みんなで守ろう！

みんなの学校

12・18集会・パレード

橋下府政が打ち出した私学助成大幅削減と助成制度改悪に対して「私学を守れ、大阪の高校・教育を守れ！」と扇町公園に高校生、卒業生、保護者、教職員、労働組合、他府県の私学関係者など1000人を超える人が集まりました。

集会では、高校生が自分の体験から、学習する事の意味や大切さを学んだ学校を守りたい、私学の教職員が、小さい学校だからでき

るよさ、教職員が学校全部の生徒の名前を覚え、つながりを持つていること、集会には学校から卒業生を含め1000人が参加していることなどを発言しました。



生徒数や進学、スポーツなど実績に応じた私学助成

補助金制度に改悪すれば、私学無償化が拡大しても、小規模の私学がつぶれて、生徒の学ぶ場がなくなってしまう。集会では、橋下知事の教育政策は、私立も公立も学校を生き残り競争に放り込み、競争に負けた私立高校、公立高校をつぶして安上がりの教育をすすめることだと批判し、国と大阪府に教育予算を増やすことを求めるアピールを採択し、集会後、西梅田まで「私学を守れ！大阪の高校を守れ！」「教育に競争を押しつけるな！」を訴えながらパレードしました。



＜教育文化府民会議の声明＞

私学助成大幅削減と助成制度改悪に対し、見直しを求める声明を次のように発表しました。

どの子も安心して豊かに学べる高校教育を！

－競争を激化させ、小規模校をなくす私学助成制度の改悪に反対します－

2010年12月22日

子どもと教育・文化を守る大阪府民会議

「学習内容が多くなって勉強について行けるのか」「競争、競争で豊かな心を持った子に育つのか」「希望する高校に入れるのか」など多くの保護者の不安の声が上がっています。このような不安を解消するためには、少人数学級の実施や先生の数を増やすなどでゆきとどいた教育ができるように行政が教育条件を整備することが必要です。しかし、橋下知事はこの3年間で教育予算を583億円も削ってきました。その一方で「教育日本一」を掲げています。「未来社会の形成者としての人格・能力を育てる」という学校の目的を投げ捨て、「学力テスト」で点数を取り全国順位を上げることや「アジアでの競争にうちかてる人材育成」のため「競争教育」を強めることなどが「教育日本一」の中身です。

また、橋下知事は私学助成を大幅に削ってきました。私立小中学校への補助金は25%、私立高校への補助金は10%も削られ、今後も続く予定です。そして今、私立高校には集まった生徒数分の補助金しか出さない制度に変えようとしています。規模の小さい学校への補助金は大幅に減ってしまい、このままではなくなってしまいます。「人気のない学校は退場してもらう」と橋下知事は言いますが、小規模校は人気がないから小さいのではありません。その学校の教育目標から小さいままにしているだけです。

さらに、難関大学に多数進学したとか、全国大会に出場したとかを「がんばった学校」とし、それらの学校には助成を加算しようとしています。このため、進学や部活動がさらに「競争」の道具にされてしまいます。「がんばった」生徒にはお金を差し出すのではなく、賞賛の拍手を送るのが教育の姿です。橋下知事はなんとしても生徒獲得競争を私立高校間で行わせようとしています。教職員は生徒獲得競争に追われ、落ち着いて教育に取り組むことができなくなります。私立高校の教育を歪めることにつながってしまいます。

一方、私立高校の学費無償化が拡大されようとしています。その目的は「私立高校が公立高校と生徒獲得競争をすすめる上で条件を同じにする」ためです。公立高校と私立高校を「競争」させようとしています。「競争」に負けた学校は、なくなってもいいというのが橋下知事の姿勢です。

どの高校も大阪の教育で大きな役割を果たし、生徒が成長する場となっています。大規模な学校や「競争」に勝った学校だけが生き残るような制度は、教育にとっては大きなマイナスになります。様々な個性をもつ生徒がいて、その子にあった多様な学校が必要です。先生が生徒の名前も顔も覚えられないような大規模校だけではなく、その学校に通う生徒全員の名前と顔を覚えられるような小規模校も必要です。先生と生徒が日常的にふれあえる学校を必要としている生徒もたくさんいます。ひとりひとりの生徒を大切にするために、ひとつの私立高校も公立高校もなくしてはなりません。

友達と共に勉強やクラブ活動で充実した高校生活を送りたいというのが多くの子どもの願いです。希望するどの子にも高校生活の機会を保障し、豊かな高校生活を送ることができるようにするのが大阪府と国の役割です。子どもの願いを踏みにじり、学校つぶしにつながる計画は決して認められません。早急に計画の見直しを求めます。

小学校1年生の 35人学級実現へ

文部科学省は、12月17日、2011年度政府予算案において、小学校1年生の35人学級を実施することで関係大臣と調整がついたとして「大臣合意」を明らかにしました。

今年度当初から、概算要求に向けての署名、政策コンテストに向けてのブックコメント、予算確定に向けての教育全国署名、「35人学級実現見送り」報道を受けての緊急要請行動など、予算編成最終盤までさまざまな取り組みがありました。当初の計画から後退したことに不満は残りますが、最終盤まで展開された粘り強い全国の運動により

30年ぶりの少人数学級への改善へ一歩を踏み出したことは、国民世論と私たちの運動の成果として確信にすべきことだと思います。

次年度以降の取り扱いについては、「学校教育をとりまく状況や国・地方の財政状況等を勘案しつつ、引き続き、予算編成において検討する」とされており、国の責任による教育条件整備を基本に、早急に計画を前進させること、高校や障害児教育分野などの計画の改善を目指すことが今後の課題です。様々な取り組みに協力・共同していただいた団体・個人の皆様に感謝するとともに、今後も引き続き、子どもたちのために取り組みをすすめていきましよう。

集 会 案 内

「大阪都構想」を考えるつどい ～私たちの暮らしはよくなるの?～

2月1日(火) 午後6時30分
いきいきエイジングセンター
3階エイジングホール(入場無料)
(地下鉄「南森町」から南へ徒歩5分)

- ・弁護士チームによる「大阪維新の会」の分析
- ・「現場の声」「市民の声」の報告
各分野から

主催 「大阪維新」を考える弁護士と市民のネットワーク
(自由法曹団、民主法律協会)

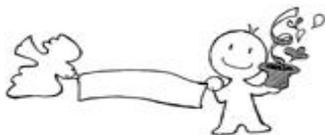
緊急集会

子どものいのちと育ちを守れ 「子ども・子育て新システム反対」 の声を大きく広げる府民集会

1月16日(日) 10時～12時
中ノ島中央公会堂

- ・「新システムで待機児童が解消され、少子化が克服できるのか?」
- ・集会後、御堂筋をパレード

主催 子どものいのちと育ちを守る大運動大阪実行委員会



子どもと教育を守る

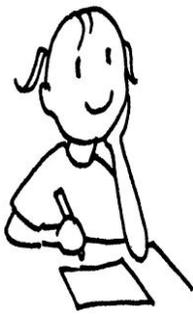
城北ネット

「子どもと教育をまもる城北のつどい」を12月5日に開催。今年で23回目。前身のつどいも入れるともう四半世紀です。

「子どもと教育をまもる城北ネット」が呼びかけ、実行委員会を立ち上げて取り組んでいます。つどい当日までの実行委員会が、1回ごと、交流と学習の場になるように努力しています。今年は、分科会で話し合われたことが全体に伝わらないので、何か一工夫してみようと言アピールを保育所、小学校、中学校、高校の各分野からしました。

ポイントは生々しい現状を三分間スピーチ、願いは分科会で話すことにしました。子どもに関わるあふれる思いが講演へとつながりました。

DCI日本「子ども権利モニター」編集長の木附千晶さんが「子ども期はどうなっているのか、成長・発達をはばむもの」をテーマに話されました。子どもを守り育てるためには、目の前の子どもへの思いや思いに寄り添い、まずは大人がつながって安心感のある社会を作っていくことが大切だと結ばれました。



編集後記

12・18集會に参加しました。高校生や卒業生の大好きな学校を守りたいという思いが溢れた発言や歌声が集會・パレードを盛り上げてくれました。

少し長くなりますが、高校生の声を紹介します。

「学校って、人とつながることがこんなに豊かでステキなことなんだって知れるところ。ある先生が教えてくれました。そうなんだ！学校でそのステキさ、うれしさ、すばらしさを知って社会に出て行くんやあ！ってワクワクしました。うれしさがひろがっていく。学校がなくなったら、子どもたちは行き場を失ってしまう。生徒ぎゅうぎゅう詰め学校では競争ばかりで人とつながる豊かさ、みんなで何かをする喜びを知ることはできない。みんなのイヤ！学校じゃない！どの子ども安心して学べて、この学校が大好きって思える学校ばかりだといいな。」(集會案内B13より)

公私の競争をあり、人格形成という教育の場を、生徒獲得・実績づくりを第一目標に変質させてしまう「子どもを泣かす」私学助成制度の改悪を許すことはできません。教育文化府民會議の見直しを求める声明を受けとめていただき、府内各地から各団体・個人が見直しを求める声をあげていただくことを願ってやみません。(S)